

第6回高松中心市街地プロムナード化検討会議 議事概要

1. 会議の日時及び場所

- (1) 会議名 第6回高松中心市街地プロムナード化検討会議
- (2) 日 時 令和8年7月28日(火) 午前10時00分から午前11時40分
- (3) 場 所 サンポート高松 シンボルタワー展示場

2. 出席委員の氏名

中村 英夫、西成 典久、佐藤 清志、北條 裕介、漆原 康富、川崎 武文、堀川 満弘、
栗原 盾、古川 康造(代理：福田 優)、河田 悦夫、齋藤 文克(代理：大熊 徹也)、石
田 賢、中村 孝、福本 仁志、坂野 花菜子、井口 雅博、次田 吉治、三宅 秀造、西尾
徹、生田 幸治(代理：尾幡 季之)、塩田 広宣

以上、21名

3. 議事概要

事務局から資料3について説明した後、議論を行った。

【香川県旅客船協会 堀川委員】

サンポート高松地区のにぎわいを実感しており、プロムナード化の取組みは好調であると評価している。

高松中央商店街への動線として、玉藻公園を見ながら屋根付き遊歩道を整備することや玉藻公園の西門から東門を経て商店街へ抜けるルートの周知強化、ことடன்等を利用してもらうための周知を工夫していただきたい。

また、旅行者が手ぶらで街歩きできるよう、JR高松駅や琴電高松築港駅近くにキャリーケース等を預けられるロッカー等の増設と分かりやすい周知を行っていただきたい。

【高松市創造都市推進局長 次田委員】

玉藻公園は指定管理者制度で運営しており、西門からは公共交通機関の利用者、東門からは無料駐車場を利用する車での来園者が多い状況である。

JR高松駅やことடன்高松築港駅に近い玉藻公園の西門から東門へ抜けるルートは、中央商店街に向かう近道にもなるため、検討会でのご意見を踏まえ、周知方法等を高松市としても考えていきたい。

【株式会社高松三越 石田委員】

高松はコンパクトシティとして商店街や病院、住宅街といったところが徒歩圏内に集中し、利便性が高い街である印象を受けており、また、程よい混雑感やアート、玉藻城などの豊富なコンテンツがあり、非常に動きやすく魅力的な街だと感じている。

県立アリーナ開館によるサンポート高松地区の活性化を中央商店街へ引き込み、滞留が増えることで消費を向上していくと思う。

また、ターゲットを明確にした上で、それぞれのニーズに応えるプランニングを行うことは良いと思う。

夏場の暑さ対策として、ベンチや屋根、日陰、ミスト空間などの休憩スペースを整備することで、快適なまち歩き(歩行ニーズ)がさらに生まれると考える。

【事務局】

特定のターゲットに偏ることなく、幅広いニーズを取り入れながら今後の検討に反映させていきたい。

【日本大学 中村委員長】

暑さ対策も含め、まちに出てきてもらう工夫については、継続的な課題として検討していただきたい。

【四国旅客鉄道株式会社 北條委員】

検討の進め方がサンポート高松地区から中央商店街への誘導の視点が中心であるが、買い物で中央商店街に来た人がサンポート高松地区に訪れて景観を楽しめるような、双方向での案内・誘導を検討してほしい。

【四国地方整備局 福本委員】

サンポート高松地区に訪れる歩行者が増えていることを踏まえ、「ガーデンプロムナード」のように、「歩行者道路」や「多目的広場」等の名称について、ライトアップ等も始まったことから市民に親しまれるような良い愛称を付けてはどうか。

来訪者が車で訪れた際、駐車場を探してうろつく車を減らすため、民間サービスのように事前に予約できるシステムの導入検討も有効ではないかと考える。

【事務局】

歩行者道路等の名称は親しみやすい名称となるよう関係機関と検討していきたい。

周辺駐車場の満空情報を公開する取組みを実施しているが、駐車場の予約システムについても、御意見も踏まえ関係部局と連携を取り検討していきたい。

【高松市都市整備局 三宅委員】

移動手段でつなぐという趣旨から、社会実験を実施しているまちなか直行バスを積極的に活用してもらえるような手法の検討が重要であると考えている。

徒歩移動の発生拠点として高松駅だけでなく、ことでん高松築港駅やことでん片原町駅が交流拠点となるよう、駅周辺のまちづくり・空間整備も重要である。

「高松市中心市街地夜間景観ガイドライン」に基づき、歩行者道路のライトアップを開始しており、今後は、サンポート高松地区から中央商店街、さらには中央公園への歩行者動線をライトアップすることで光の回廊が形成され、夜間の心地よい空間が回遊性向上に寄与すると考える。

【四国運輸局 坂野委員】

まちなか直行バスの社会実験については、利用者数の現状からは厳しいような感触が見受けられるものの、新しい交通モードは利用の定着や浸透に時間がかかるため、効果的な周知と利用者アンケート等を踏まえた改善、検証を引き続き行っていただきたい。

また、既存のバス・鉄道との役割分担や連携、情報サービス（Google map など）のツールを活用した周知も踏まえて検討してほしい。

【事務局】

まちなか直行バスの社会実験は周知が進み、利用者が少しずつ増えていっている。電車や空港からの利用者にも届くような周知を引き続き進めていきたい。

また、利用者のニーズを見極めながら、社会実験を進めていきたい。

【日本政策投資銀行 佐藤委員】

まちなか直行バスの運賃は、移動距離に対して 200 円は高いと感じてしまう。利用促進に向け、既存のバスや電車も含めた 2km 圏内の運賃設定（ワンコインや 1 日乗車券、公的支援等）の工夫があるとよい。

また、番町交差点、中新町交差点は地下道があるため、菊池寛通り交差点に自転車が集中しやすい。今後は番町、中新町交差点の使い方も含め、中央公園のリニューアルが進み、人が集まる場ができるため、平坦で自転車移動に適した高松の強みを活かしつつ、自転車と歩行者の動線錯綜の課題解決に向け検討してほしい。

【事務局】

バスの料金については、バス事業者や高松市等と連携して今後の進め方について検討していきたい。

【香川県警察本部 井口委員】

菊池寛通り交差点のスクランブル方式化を目指すにあたり、自転車の押し歩き指導や誘導・安全確保が大きな課題となる。

中央通りを東西に横断する自転車と歩行者の錯綜については、地下道の在り方も含め、道路管理者の協力や関係者の街づくりへの強い思いが重要であり、警察としても対応していきたい。

【香川大学 西成副委員長】

ウォーカブルな街づくりにおいては、単一のプロムナードだけでなく、周遊・周回できる複数のルート（一周できる回遊路）を作ることが重要である。

高松北警察署から兵庫町商店街までの細街路においては、歩行者やスーツケース客だけでなく、業務車両が多く通行しており多くのステークホルダーを有するエリアである。

インフラ整備を通じて、このエリアの高度利用や民間の投資を呼び込むために、別途、検討を進めていく必要がある。

【シンボルタワー開発株式会社 栗原委員】

街を歩く、周遊、回遊することは、一つのルートに絞るのではなく、いろんなルートがあってそこを回ることが重要だと思う。様々な目的や課題に対して取り組んでいくためには、複数のルートに対して、色んな角度から並行して検討していくことが重要だと思う。

【高松タクシー協会 川崎委員】

菊池寛通り交差点の歩車分離化（スクランブル化）実験により自動車の通行がしやすくなったため、今後も期待している。

JR 高松駅南東交差点は、サンポート高松地区の来訪者が増えたことにより、バス、タクシー、自家用車と歩行者の往来が多く、右左折がしづらいため、歩車分離も含めた歩行者とのすみ分けを検討してほしい。

【四国地方整備局 中村委員】

ウォーカブルな街づくりやコンパクトな街づくりの取組みは非常に重要だと感じている。

街歩きのルートやそのエリアをどうマネジメントしていくかが重要である。高松北警察署周辺の細街路を含め多くの関係者・市民が地域に愛着を持ち、主体的に活動できる具体的・魅力的な仕掛けや空間づくり、エリアマネジメントの体制構築が重要である。当方も協力させていただきたい。

【事務局】

エリアマネジメントについては、香川県・高松市・地域関係者と議論を重ねており、サンポート周辺等で適切な組織・体制が構築できるよう取り組んでいきたい。

【日本大学 中村委員長】

本日の議論を踏まえ、引き続き社会実験や各種取組みの方針に則り、具体的な検討を前向きに進めていただきたい。

-以上-